

## 囲碁にまつわる言葉 【手談】

囲碁は読み合いの文化です。相手の応手を考え三手や十手先まで読むのです。これはまさに戦そのものです。敵を知ることによって、戦術を考えるのです。どこが弱いか、強いかを探し、真正面から攻めず陽動作戦も取り入れます。そして、どこを主戦場にするかを見極めるのです。この状況は現在のロシアのウクライナ侵攻に対するウクライナ軍の作戦と同じです。真正面から攻撃するのではなく、遠回しにじわじわ攻めるのは囲碁も同じです。

### ----- 【手談】 -----

盤上に打たれた石が相手に何かを語りかけているかのように感じるころから、囲碁が「手談」といわれる由縁です。手談の出典は、中国の逸話集である「世説新語」です。その「顔氏家訓一雑芸」には、「王中郎は圍碁を以て是れ坐隠となし、支公は圍碁を以て手談と為す」とあります。圍碁とは囲碁のことです。

以下の【手談】は次のような無言の会話です。

- ・黒1 「下辺に白の模様を作られるのはいやです」
- ・白2 「いや、模様は作りません。左辺に地を作りますので、三三に入って生きてください」
- ・黒3 「隅で閉じ込められるのはいやです。中央に出ます」
- ・白4 「分かりました。では下辺に地を作らせて貰います」
- ・黒5 「では、白一子を頂戴して、進出します」

碁を打つというのは、碁石を通して一手一手、無言で会話をしている姿です。有段者のレベルになって、ようやく手談が成り立つようです。「手談」は囲碁の面白さの一面を強調したものといえます。



(2023年5月10日 大和田囲碁同好会 成田 滋)